

# みき通信

日本共産党 町議会議員  
くぼたみき 活動報告

第74号 2017年9月25日



発行 がんばれ くぼたみきの会

連絡先 875-7126 (阿部)

## 世界が模索 - 力より対話

9月3日、北朝鮮は6回目の核実験を強行しました。これに対して国連安保理は、新たな経済制裁を決定しましたが、北朝鮮はミサイル発射で対抗し、その挑発的行動は収まる気配がありません。8月28日と9月15日のミサイル発射時、政府は全国瞬時警報システム（Jアラート）を作動させ、東北などの市町村でサイレンが鳴り響き、避難が呼びかけられるなど大騒ぎとなりました。菅義偉官房長官は「冷静に平常通りの生活を」と言っていますが、現実的とは思えない政府の対応が国民に不安をもたらしています。

メディアも一斉に北朝鮮の行動を解説し、軍事パレードの映像を流し続けましたが「戦争を避けるために何をすべきか」を提起する報道は、ほとんど見られません。「北朝鮮は何をするかわからない」「話し合いは不可能」というイメージが増大し、国民を思考停止にさせかねない報道の在り方が問われています。

国連安保理は、制裁と同時に対話を通じた解決を呼びかけ、各国が外交的解決の道を探っている中で、日本だけが対話を否定し続けています。

北朝鮮が米国に対抗して挑発的行動をとっているとすれば、米朝の対話以外に道はありません。

日本は「核抑止力論」から抜け出して、世界122ヵ国が賛成した核兵器禁止条約に加盟し、対話による解決の先頭に立つべきですが、「核の傘」に依存し、9条改憲に執念を燃やす安倍首相の眼中にはないでしょう。

民進党の混乱に乗じ、森友、加計問題をうやむやにして、政権維持をはかろうという自民党の勝手な都合で衆院解散総選挙が迫っています。

耳障りの良いその場しのぎの言動や、北朝鮮問題を利用した軍事力強化や改憲論にごまかされない思考が必要です。

平和で安心して暮らせる政治にするためにアベ政治、自公政権を退場させましょう。

## 地域密着型の特養施設建設計画 消滅 町議会議員 くぼた みき

地域密着型特別養護介護施設建設の予定事業者が、資材の高騰等を理由に撤退したことは記憶に新しく、別事業者による早期開設を待たれる方は少なくないと思います。ですが次の第7期介護保険事業計画策定に特養建設計画は盛り込まれていません。特養待機者は114人。なぜ建設計画を見送るのでしょうか。介護保険事業計画等運営委員会の中で、介護事業所向けアンケートの回答に「待機者の減少」「近隣に特養施設が出来た」「現況にて町民の方の入居希望に十分対応しているものとする」という記述。また「待機者がいるからと単純に特養を建設を考えると、保険料、給付費も上がる。後々入居者がいなくなり経営が成り立たなくなる状況もある」と国からの通達があったとありますが、大きな施設ならともかく、葉山町では保険料に影響の少ない29床の地域密着型特養の建設計画でした。第7期の計画に盛り込まれなければ、今後4年間の施設建設がなくなります。町民の方の声をしっかりと受け止めてくれるよう求めます。

### 学校給食に関する視察報告

京都府八幡市では29年5月より、小学校3校で中学校4校分を作る親子方式を始めました。給食調理室を新たに建設するのではなく、給食室の隣の教室も給食室として改築し、限られたスペースに合わせた縦型の炊飯釜を設置。これまで使っていた調理釜など使えるものは使っています。新築する給食調理室に比べれば動線など不自由な部分もあるのかもしれませんが、アレルギー食対応にも、しっかりと取り組んでいました。中学校はPTA室を配膳室に改装。食缶運搬には子どもたちがぶつからないように廊下・教室を一方通行とし、子ども達の動線に配慮をしています。親子方式には国の補助金はありませんが、施設整備費は小中校合わせて6億5千万円でした。

葉山町では、小学校給食調理室の改装では「面積不足で出来ない」というものですが、葉山町の調理数と変わらない八幡市では、町が提示したスペースを取らなくても親子方式を行っている実績がありました。ですから、残してほしいという声大きい、4小学校の自校方式、中学校との親子方式、中学校2校の自校方式、兄弟方式、センター方式等々の建設費や給食調理室改装工事費、それぞれの職員数など、必要経費等も算出した比較を行うことが必要ではないかと考えます。